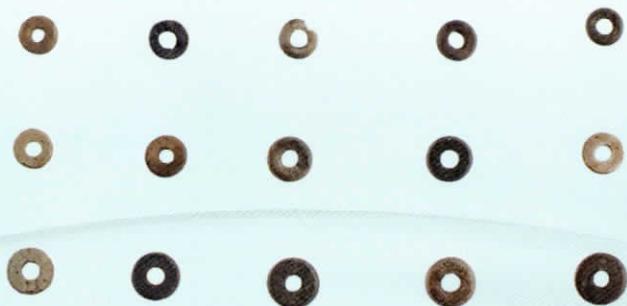


轍

わだち



発掘調査速報

坊の塚古墳の葬送儀礼

埋文エッセイ

各務原市出土の鏡をめぐって

埋文トピックス

歴史ギャラリー、オープン

埋文センター

平成29年度の歩み

坊の塚古墳第3次発掘調査出土遺物

冢がたま うすだま さかながたどせいひん
勾玉・白玉・魚形土製品

坊の塚古墳の石槨と葬送儀礼

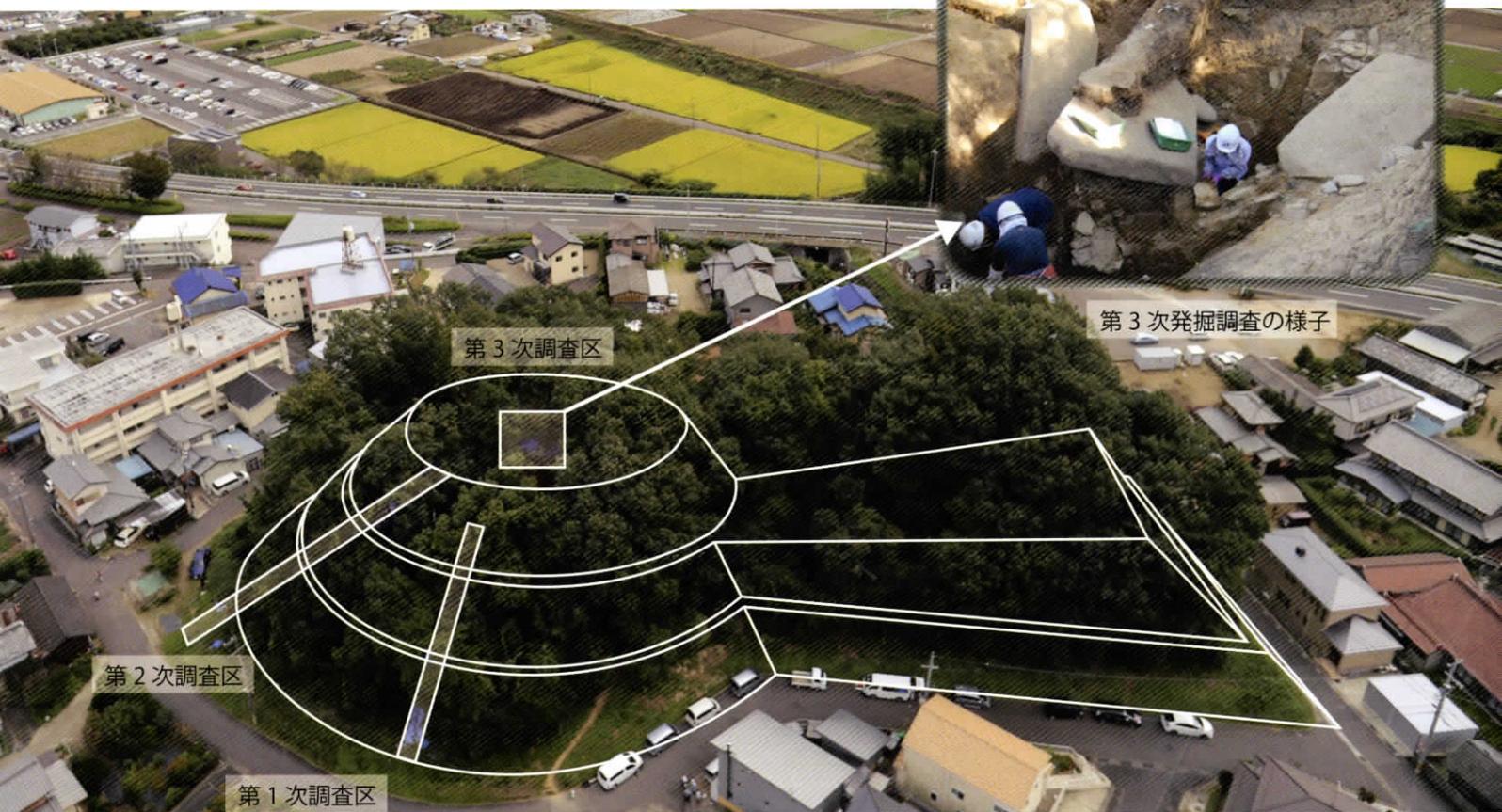


写真1 坊の塚古墳調査位置と調査風景

坊の塚古墳概要

鶴沼羽場町にある坊の塚古墳は各務原台地の北東縁辺部に位置しています。墳長約 120mの前方後円墳で、市内にある古墳の中でも一番大きい古墳です。4 世紀末頃に造られたと考えられています。平成 27 年度より 5 ヶ年計画の発掘調査を継続して行っています。

これまでの発掘調査（第1・2次調査）

平成 27 年度より 2 次にわたって行った後円部の調査から、拳大の葺石が墳丘斜面に敷かれていることが確認できました。斜面の途中には平坦な面が造られており、後円部は 3 段築成であることがわかりました。葺石は、古墳の盛土が崩れてしまわないための土留めの役割と、古墳を装飾する役割を持っていたと考えられています。

さらに第 1 次調査では、斜面の途中に盗掘の時に運び出されたと思われる大きな石が 1 枚見つかりました。この石は石槨（死者の埋葬施設 図 1）の一部で、天井としての役割を持った蓋石です。大きさは長辺 2.85m、短辺 1.38m、厚さ 17 cm（いずれも調査時の測定値）を測り、1 枚が 2 t 以上の重量と推定されます。

平成 29 年度の発掘調査（第3次調査）

第 3 次の調査では、いよいよ石槨本体を調査しました。昭和初期の記録によると、明治 18、19 年頃に一度盗掘（記録では発掘）があったとされ、現在でも当時にえぐられたと思われる穴が墳頂部に残っています。

後年に堆積した土を取り除き、古墳本来の盛土を検出し、盗掘の状況や石槨の構造を明らかにするために調査を行いました。調査の結果、盗掘は想像以上に深く行われており、石槨は大きく壊されていました。しかし、石槨の構築材である板石と複数の蓋石を確認することができました。蓋石は、第 1 次調査で発見されたものと合わせて 5 枚となり、すべてが天井として並べてのせられていたと仮定すると、いずれの蓋石も幅が 1m 以上あるこ

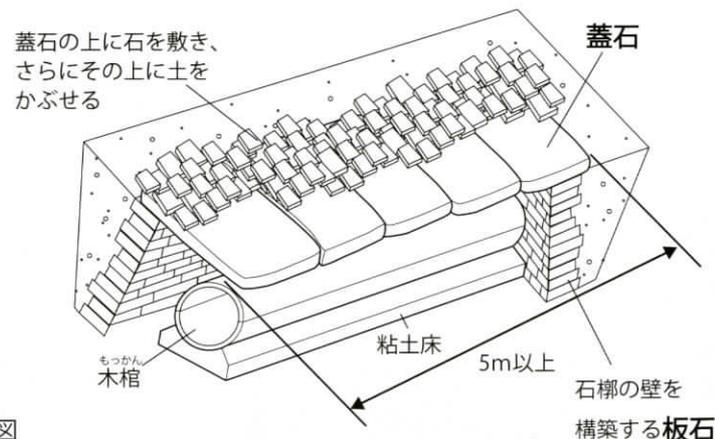


図1 石槨モデル図

とから、石槨の全長は最低でも 5m以上あったと推定されます。

出土遺物

石槨は盗掘によって破壊されていたものの、発掘調査では石製品や土器、土製品等の様々な遺物が出土しました。

石製品は、斧、刀子、勾玉、管玉、白玉（写真 3）が出土しています。これらのうち、斧と刀子は当時の鉄で

造られた農機具を、玉類は装飾具を滑石（柔らかく加工しやすい石の一種）で模った石製模造品です。これらの石製模造品は蓋石の周辺から出土したことから、遺体と一緒に石槨内に納められた副葬品であると思われます。

一方、土器・土製品は小型丸底壺、高坏のほか 2 種類の食物形土製品が出土しました。小型丸底壺は内外面が赤く塗られています。高坏は坏部のみで、脚部は確認されていません。食物形土製品は、丸く薄い円盤状のモチ形土製品が 1 点と、魚形土製品が 2 点です。魚形の 1 点



写真2 遺物出土位置と石槨推定位置（上から）

目は、細い竹管を押し当てて目を表現しており、口は開いた状態になっています。2 点目は、口は一文字状に表現され、目は確認できません。

いずれの魚も長さ 7～9 cmのかわいらしいもので、蓋石より上の埋土中から発見されました。

供献土器に見る坊の塚古墳の葬送儀礼

出土した土器・土製品は、いずれも死者を埋葬した後に行われる葬送儀礼に用いた供献土器と思われます。一般に古墳で発見される供献土器は、高坏、丸底壺などの器に食物形土製品を伴って出土することが多く、中には器として筍形土製品が見つかることもあります。食物に見立てた土製品を器にのせ、被葬者を吊う儀式に供されたものと考えられています。主に 4 世紀後半から 5 世紀後半の前方後円墳で見られる遺物ですが、出土例はあまり多くありません。

確認されている食物形土製品の種類は、アケビ形、モ

チ形、鳥形、魚形などがあります。その他、形を特定しづらい棒状や角状、団子状のものなども確認されていますが、特に魚形土製品の出土品は珍しく、被葬者や古代の各務原の自然的・社会的背景を探る上でも大変興味深い遺物といえそうです。

発掘調査で出土した遺物は、今後、各務原市中央図書館 3 階の歴史ギャラリーで公開していく予定です。



写真3 第3次発掘調査で出土した滑石製品（左は勾玉、中央は石製斧、右上から管玉・刀子・白玉）

各務原市出土の鏡をめぐって

鏡は、古くは石や金属を磨いて鏡面をつくり使用したことが起源といわれます。日本の歴史に初めて登場する鏡は、国内で製作されたものではなく、弥生時代中頃、朝鮮半島から九州北部地方にもたらされた銅鏡（多鈕細文鏡）が最初であるといわれます。当時の鏡は極めて貴重品であり、実用品ではなく呪術具、祭祀具として受け入れられたと考えられています。今回は各務原市内の発掘調査などで出土した鏡から、鏡に込められた意味やその用途の変遷をご紹介します。



写真1 一輪山古墳出土 三角縁波文帯四神二獣鏡
(各務原市指定文化財)

各務原市最古の鏡（古墳時代）

各務原市では、かつて鶺沼西町に所在した「一輪山古墳」から出土したと伝わる古墳時代前期（3世紀末～4世紀）の銅鏡「三角縁波文帯四神二獣鏡」（写真1）が各務原市指定文化財になっています。確認される市内最古の鏡であり、縁の断面が三角形、内側に4体の神と2体の神獣が見られる、直径約21.8cmの大型の青銅製の鏡です。三角縁神獣鏡は、既に同様の鏡が500面以上確認されていますが、その生産地や出自についての謎が多く、現在も結論は出ていません。なかでも「魏志倭人伝」に登場する倭国の女王卑弥呼に中国（魏）より与えられた鏡であるという説も根強く、後の時代に中央政権より地方豪族に与えられた政治的権威の象徴であったのかもしれない。

鏡を模した石製品（古墳時代）

一方、平成27年度の「鶺沼古市場遺跡」で出土した2種類の石製模造品（写真2）は、小さなものですが、祭祀に用いられた銅鏡や剣を石で模したものとされます。（右・鏡形：直径約3.2cm）こうした石製品は、主に古墳時代中頃（5～6世紀）の集落遺跡から出土することが多く、鏡や剣が広く認知されてきたことを意味するものでしょう。当時の社会における祭祀など、限られた特別な目的で使用されたと考えられていますが、石を削っただけの形状から、当時の人々の素朴な祈りの形を表しているようにも感じられます。

仏教と融合した銅鏡（平安時代～中世）

時代とともに、日本の銅鏡もその姿を変えていきます。（写真3）は、各務原市指定文化財である中世の「懸仏」（※文化財の名称は「懸佛」といわれるものです。銅板に千手千眼観世音菩薩が刻印されたこの「懸仏」は、蘇原地区の地中より出土したものと伝えられ、現在は熊田町自治会によって大切に保存されています。上部にはわずかに釣手環の痕跡が残っており、寺社の壁などに懸けられて祀られたことがわかります。

一般的に「懸仏」とは、平安時代末期に広まった神仏習合思想（注1）を体現したものと考えられ、神の憑代である鏡に仏像が現れた「鏡像」「御正体」とも呼ばれるものです。鎌倉～室町時代にかけて全国で流行し、江



写真3 懸佛
(各務原市指定文化財)



写真2 鶺沼古市場遺跡出土
石製模造品
(左：剣形 右：鏡形)

こうした銅鏡は、粘土などで造った型に溶解した金属（主に銅を主とする合金）を流し込んで成形する「鑄造」という技術で作られています。

戸時代まで製造が続きました。写真の懸仏は、鏡に見立てた直径約 15.5 cm の銅板に線刻を施した簡素なものですが、造作的には遅くとも鎌倉時代前半までに造られたものと考えられます。仏教の影響を受けつつも、祭祀具であった銅鏡が後世まで生き続けた例であるといえるでしょう。



写真 4 鶴沼古市場遺跡出土 和鏡

和鏡から化粧道具へ（平安時代～近代）

一方で銅鏡は、時代とともに宗教的な祭祀具から美術工芸品・実用品としても生産されるようになります。（写真 4）は平成 27 年度の鶴沼古市場遺跡の発掘調査より出土した銅鏡で、「和鏡」と呼ばれるものです。「和鏡」の起源は、中国（唐）で生産された鏡の模倣を脱し、平安時代後期頃より鏡背面に日本独自の風物文様をあしらった銅鏡を国内で造ったことといわれ、当時の平安貴族の化粧道具としての普及と国風文化の隆盛、国内の鑄造技術の進歩がその背景にあると考えられています。

鶴沼古市場遺跡出土の銅鏡は、直径約 9 cm の比較的小さな鏡ですが、鏡背面には縁起の良い鶴と松らしき文様が施されています。こうした和鏡からは、鏡が古代より引き続き神聖で高貴なものであり、現在にも通じる日本独自の繊細な美意識を見ることができます。

鎌倉時代を通じて鏡背面はより精緻に複雑化し技術が高度化すると、室町時代にはいよいよ柄のついた鏡が登場します。江戸時代に女性の髪形が大型化するとより大

型の鏡も現れ、江戸時代後半には工芸品としての性格は以前より薄れていき、鏡は広く庶民にも実用品として普及していきました。

こうした長い歴史をもつ銅鏡ですが、現代のガラスを焼き付けた鏡が一般的になる近代まで鑄造による基本的な製作方法は大きく変わることはなかった一方で、今日の鑄造技術は飛躍的な進歩をとげ、伝統的な技法に加え最新の CAD や 3D などの技術を駆使した、極めて複雑な形状の金属成形をも可能にしています。

各務原市埋蔵文化財調査センターでは、平成 29 年夏、（公財）岐阜鑄物会館の協力のもと、伝統的な鑄造技術を体験して銅鏡を製作する「チャレンジ！古代の銅鏡づくり」講座を 2 日間にわたって開催しました。鏡背面のデザインは市内出土の「三角縁神獣鏡」をアレンジしたものとし、背面中央には参加者のみなさんが考えたデザインを加えています。高温の合金を勢よく型に流し込む銅鏡は、表面を磨くほどに現代の鏡と遜色のない輝きを増し、参加者からは驚きの声があがりました。（関連記事 6p）



銅鏡をみがく

注 1：日本において元々信仰されていた神道と、後に伝わった仏教を調和・融合する信仰や教説 平安時代には日本古来の神とは、仏教の菩薩が仮の姿として現れたものとする「本地垂迹説」が広く浸透した。

参考文献：

- 「和鏡の文化史 水鏡から魔鏡まで」青木豊 刀水書房 1992
- 「考古学 その見方と解釈 下」森浩一 編 筑摩書房 1993
- 「月刊考古学ジャーナル 10月号 特集 和鏡の考古学」
ニューサイエンス社 No507 2003
- 「各務原市の文化財」各務原市教育委員会編集発行 2015



各務原市埋蔵文化財調査センターは、平成 29 年 10 月に中央図書館 3 階へ事務所が移転しました。移転に合わせ、各務原の歴史文化を紹介する展示施設として「歴史ギャラリー」を併設、オープンしました。現在は、市内一輪山古墳出土の「三角縁波文帯四神二獣鏡」（市指定文化財 複製品）をはじめ、坊の塚古墳発掘調査で出土した埴輪など様々な考古資料を展示、公開しています。ぜひご覧ください。

歴史ギャラリー、オープン

埋文トピックス

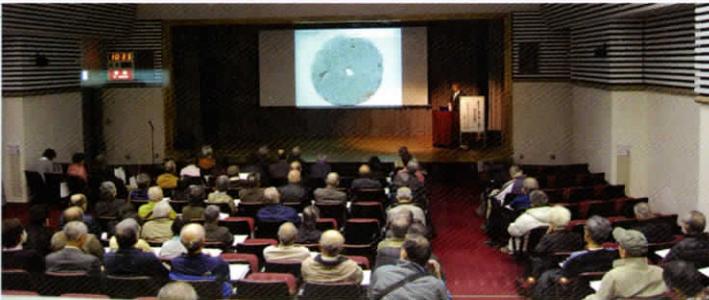
歴史ギャラリー

テーマ	特別展示 「坊の塚古墳 - 発掘された巨大前方後円墳」
会場	中央図書館 3 階 歴史ギャラリー
内容	平成 27 年より坊の塚古墳の発掘を継続中です。発掘調査で出土したばかりの副葬品や埴輪、葺石や石柵を構成していた石材などをいち早く展示公開しています。

歴史セミナー

115 人

開催日	演題 / 講師
12月2日(土)	「新発見の環濠(壕)が語る鵜沼の弥生時代」 / 元愛知県埋蔵文化財センター副センター長 石黒立人
12月16日(土)	「中世の美濃・中世の鵜沼古市場遺跡」 / 岐阜市教育委員会社会教育課 井川祥子
1月6日(土)	「石製模造品から見た鵜沼の古墳時代」 / 愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員 早野浩二
内容	平成 26～28 年度に行われた鵜沼古市場遺跡の発掘調査成果を取り上げ、見つかった遺物や遺構などから木曾川の渡河点であるこの遺跡の特徴や、美濃地域におけるその位置づけについて考える講演会を開催しました。



考古資料の貸出・展示

テーマ	企画展「謎解き！可児の古墳たんけん！」
会場	可児郷土歴史館
開催期間	7月7日(金)～9月3日(日)
貸出品目	大牧 1 号墳出土馬具 8 点

テーマ	特別展「壬申の乱の時代 - 美濃国・飛騨国の誕生に迫る」
会場	岐阜県博物館
開催期間	9月15日(金)～11月19日(日)
貸出品目	大牧 1 号墳出土須恵器・馬具等 ふな塚古墳出土須恵器・玉類、山田寺出土瓦・須恵器・風招等 野口廃寺出土瓦・須恵器等 鵜沼西町古墳出土須恵器 他 合計 102 点

テーマ	常設展「猿投・瀬戸全国古窯陶磁資料展」
会場	愛知県陶磁美術館
開催期間	常設展示 継続中
貸出品目	稲田山・天狗谷古窯跡出土須恵器・灰釉陶器 20 点

刊行物

1	埋文センターだより第 26 号「轍 - わだち」
2	炉畑遺跡 C 地区(三ツ池遺跡)発掘調査報告書

職場体験等受け入れ

7 人

実施日	参加者
10月24日(火)、25日(水)	中央中学校 4 名
11月8日(水)、9日(木)	蘇原中学校 2 名
8月22日(火)、24日(木)	大学生インターンシップ 1 名

かかみがはら寺子屋事業 チャレンジ！古代の銅鏡づくり

26 人

参加者	小学校 4 年生～中学生の親子 11 組 (26 人)
開催日	8月4日(金)、5日(土)
内容	埋蔵文化財調査センターと(公財)岐阜铸物会館が連携して小中学校親子向けの銅鏡づくり体験講座を開催しました。古代より伝わる铸物(いもの)の技術を学び、市内出土の「三角縁神獣鏡」をモチーフとした本格的な銅鏡を製作しました。



夏休み！埋文体験講座 古代アクセサリーをつくろう！

37 人

参加者	小学生以上
会場	各務原市教育センター「すてっぷ」研修室 2
開催日	7月27日(木) 20 人
参加人数	8月17日(木) 17 人
内容	市内の遺跡から出土した勾玉や石製模造品をモデルに滑石を削って古代のアクセサリーづくりに挑戦しました。

レギュラーメニュー講座

のべ 165 人

勾玉づくり

開催日	6月19日(月)、7月21日(金)、25日(火)、28日(金)、31日(月) 8月7日(月)、10日(木)、22日(火)、29日(火)、30日(水)
-----	---

火おこし・拓本しおりづくり・縄文アクセサリーづくり

開催日	6月22日(木)、8月22日(木)、29日(火)、30日(水)
-----	---------------------------------



出張・出前講座

25 人

テーマ	学校開放デー 勾玉づくり
参加者	小学生 25 人と保護者
会場	那加第二小学校
開催日	10月28日(土)

開催日	テーマ・団体名
5月20日(土)	「坊の塚古墳・鵜沼古市場遺跡発掘調査概要報告」歴史研究会
6月24日(土)	「遺跡から見る各務原の歴史の始まり」各務原ユネスコ協会
1月17日(水)	「坊の塚古墳の発掘調査について」ふるさと楽会

各務原市埋蔵文化財調査センター・歴史ギャラリー

〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町 3 丁目 1-3(市民公園内 中央図書館 3 階)
TEL/058-383-1123 FAX/058-383-8655 MAIL/maibun@city.kakamigahara.gifu.jp
URL / http://www.city.kakamigahara.lg.jp/maibun/index.html